

大分合同新聞社の夕刊記事を紹介します。合同新聞社の別府支局は、昨年秋に改築が行われました。意匠設計・監理は「技空・浅井康行建築工房とヴィン設計工房」のJVでした。設備は当社が担当でした。国道10号線の富士見通り交差点にあります。山と海の景観に恵まれた別府の地に調和している建物だと思っています。4階に浴室があります。公衆浴場としても使用できる施設内容です。屋上から見る別府湾は素晴らしい景観です。建物には設計から施工を通して、様々な人々が仕事をしています。当然、そこにはその仕事に携わった人達の思いが詰まっています。建物(施設)は造りますが、運営を通してその建物に息吹を与えることはできません。今回記事を拝見したときに、とても嬉しく思いました。素敵に使って頂いていることがわかりました。また、思いも及ばないことでしたが、社内コミュニケーションに役立っていることでした。記事を読んでいるうちに、ふと社内コミュニケーションに役立っている浴槽廻りの景色が浮かびました。竣工検査の時に、お湯張り時間等測定しながら施工メンバーと様々な話をした場所です。「役に立って嬉しいな!」、一緒に苦労した施工メンバーにも伝えたい気持ちになりました。

文責 金田勝美

平成25年1月30日 大分合同新聞社 夕刊 記事より

昨年11月に大分合同新聞別府支社の新社屋が完成した。耐震性やセキュリティなど優れ、旧社屋に比べて格段に居住性が高まった。それだけでなく、社員同士のつながりがより深くなるという効果もあった。


というのも、敷地内の源泉から湯を引いて天然温泉を楽しむようになり、毎晩のように同僚と「裸の付き合い」をしているのだ。不思議なもので、風呂に入れば身も心も「すっぽんぽん」にな

昨年11月に大分合同新聞別府支社の新社屋が完成した。耐震性やセキュリティなど優れ、旧社屋に比べて格段に居住性が高まった。それだけでなく、社員同士のつながりがより深くなるという効果もあった。

というのも、敷地内の源泉から湯を引いて天然温泉を楽しむようになり、毎晩のように同僚と「裸の付き合い」をしているのだ。不思議なもので、風呂に入れば身も心も「すっぽんぽん」にな

キーボード





ケーションも図れる。疲れも癒やされる。いいことづくめだ。

大分県が「お

「裸の付き合い」をして

「役に立って嬉しいな!」、一緒に苦労した施工メンバーにも伝えたい気持ちになりました。

り、職場にいるより本音の会話が增える。

ネタはその日の出来事や取材先で仕入れた話など旬なものばかり。情報交換をすれば新たな発想が生まれるし、コミュニ

温泉でつながり深く

文化は衰退気味だ。そんな時代だからこそ、市内の会社や役所は温泉を設置するなどユニークな取り組みを進めてみてはどうだろう。トップから新入社員までが同じ湯に入れば社内の風通しがよくなること間違いなし。ぜひお勧めしたい。(別府支社・山田志朗)